

かわさきの新たなランドマーク

川崎市内を一望できる展望ロビー・スカイデッキを公開



北東方面には、六郷河川敷や新宿に東京都庁、羽田空港の航空機離着、東京タワーやスカイツリーなど一望できます。



南東方向には、横浜ランドマークタワーやベイブリッジ、つばさ橋、また天気の良い日には富士山を一望することができます。

1938年に竣工した川崎市庁舎は、75年の歴史に幕を閉じ、新たに地上25階、地下2階、高さ約117mの新庁舎が誕生。

新庁舎25階には、地上110mの高さから市内を一望できる『展望ロビー・スカイデッキ』が設置され、市内は勿論、東京都内、羽田空港やスカイツリー、横浜ベイブリッジから富士山に至るまで眺望が楽しめます。どなたでも利用でき、入場無料。

【展望ロビー公開時間】

午前9時～午後9時まで
(土日祝日含む)

※設備点検や悪天候時には展望フロアを開鎖することがあります。

市民代表の議員が熱い議論を展開する議場



議員席後方の傍聴席は、100名が議会の進行を見ることができます。また、親子席が設けられ、小さいお子さんと一緒に安心して議会をご覧いただけます。

新庁舎23階・24階部分にある市議会議場は、各区選出の議員60人が市民の代表として、活発に論戦が繰り広げられています。

新議場では、新たに採決における押しボタン方式を採用し、大型スクリーンに各議員の賛否が色分けして表示されるなど、採決態度が鮮明になりました。

傍聴の流れ【動画】



「議会かわさき」広報キャラクターのおよよんが川崎市議会の傍聴の流れをご紹介します。

議会中継



開催中の会議および過去の会議をご覧になれます。

会議録検索システム



川崎市議会の本会議・委員会等の全発言を対象に言葉で検索できます。

発行者 川崎市川崎区宮本町1 川崎市議会議員 飯田満

川崎市議会報告



せいじのみかけ

2025年 vol.9

川崎市議会

環境委員会 様

ようこそ長野市議会へ



特集

- ・AIを活用した水道事業管路更新最適化事業
- 人工衛星を用いた水道管の漏水点検-
- ・高濃度PCB掘起し調査は、将来的な発見リスクへの残存

川崎市議会議員
環境委員会 委員

みつる
飯田 満



Profile

AIを活用した水道事業管路更新最適化事業 人工衛星を用いた水管の漏水点検

11月10日、長野市役所を訪問し、私たちにとって重要なインフラの一つである「水」の供給と維持管理の取り組みについて、長野市上下水道局の担当者の方々から長野市インフラ事業の概要を聴取した上で、質疑、意見交換をおこなってきました。

AI活用でより効率的な「水道事業管路更新最適化事業」を実施

川崎市では、令和8年度から令和19年度までの長期的な「川崎市上下水道ビジョン」と令和8年度から令和11年度までの「川崎市上下水道中期計画」を現在策定中で、市民の皆さんに安心安全な水の提供と持続的な上下水道事業の安定化を図るために経営改善計画の作業がおこなわれています。

特に、近年全国で発生している老朽化に伴う水管破裂や道路陥没事故、気候変動により頻発化している大雨、台風等の自然災害では、市民生活に大きな影響を及ぼしていることから、ライフラインの安全性が求められています。また、上下水道事業の持続可能な経営基盤の確保の面からも水管老朽管の更新には多くの年月と財源確保が伴うことから、水管の老朽化対策は、より客観的な根拠に基づく効率的な更新が課題であると捉え、中長期的な計画の確立が求められます。

今回、訪問した長野市上下水道局では、老朽化した水管の更新事業に、文明の利器でもあるAIを活用した「AI劣化予測診断」と「衛星画像を用いた漏水調査」という2つの新技術を活用した取り組みが実施されています。

長野市は、管路総延長の1,890kmのうち、約35%が法定耐用年数の40年を超える漏水管で、明確な漏水管の更新計画ではなく、敷設年数の古い順に更新することを続けてきました。しかし、全老朽管の解消には30年以上を要し、より客観的な根拠に基づく効率的な更新計画を策定することを急務とすることから、民間事業者における171種の環境ピックデータを組合せ、AIが漏水パターンを学習し、漏水確率を算出する劣化予測診断を導入し、最も漏水危険度の高い「レベル5」の管路から更新計画を立てる仕組みづくりが

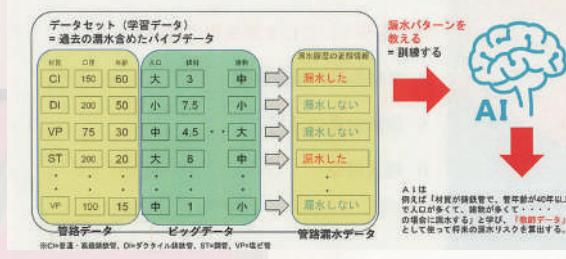


人工衛星を使った上水道の漏水調査イメージ

完成している。

また、漏水調査には、従来の音調調査では有収率向上が図られなかったため、衛星画像解析による漏水調査が実施されてきた。費用対効果として、10年、1億5,000万円に対し、2年で3,000万円と大幅な時間とコスト削減にも繋がっている。

川崎市上下水道ビジョン、中期基本計画の議論が深まる中、水管路更新の最適化については、他都市の実例を参考に、議会活動における有効化を図っていきます。



AIを駆使した排水管の老化予測診断データセット

高濃度PCB掘起し調査は、 将来的な発見リスクへの残存

11月11日、福井県庁を訪問し、昭和43年に発生した「カネミ油症事件」の原因物質であるポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の適正処理に向けた福井県の取組みを調査し、合わせて質問、意見交換をおこなってきました。

今後、発見された「高濃度PCB」は処分できず。事業者は適正保

詰まり感を滲ませる結果。それ以上に、PCBに関する知識不足による「未回答」事業者や高額な処理費用を避けたいという動機で調査に非協力的な事業者も「ない」と回答する傾向にありました。

前述したとおり、今、高濃度PCBが新たに発見されたとしても処分は不可能な状況にあります。高濃度PCBが処理できる施設が開設されるまでは保管事業所に対する保管方法の周知徹底が求められます。合わせて、ストックホルム条約やPCB特別措置法の理念に照らし合わせるならば、高濃度PCBを根絶させるために、掘起し調査は継続して実施していかなければなりません。この間、網羅的な調査手法に任せていましたが、今後は計画的且つ踏み込んだ調査の必要性についても議論の焦点となってくることと考えられます。



高濃度PCBの座学を行った福井県庁

今回、訪問した福井県も、JESCO北海道処理施設管内の自治体であり、この間の高濃度PCB廃棄物適正処理に関する事業においては、川崎市と同じ境遇だったことが言えます。特行政施設内における掘起し調査は、各部局に委ねられ、証拠書類の提出までは求めていなかったため、見落としや調査不十分による高濃度PCBの新たな発見が散発的に確認され、都度、荷姿登録をおこない適正処理をしていたといいます。

民間事業者への掘起し調査では、全ての対象事業者へアンケート調査がおこない、高濃度PCBは「ない」と回答した事業者へは、それ以上の調査は困難だと行き



川崎市上下水道局の所管施設から発見された
高濃度安定器